

おすすめ本リスト

中学生向け



テツケン

宇治かばね / 作

哲学者たちが見えたら哲学がわかりますか？

河出書房新社

身の回りの物事、事象を理論立てて突き詰めて考えていく学問、哲学。歴史上さまざまな哲学者たちが、自分の考えを哲学書として残しています。哲学書の解釈に悩むあまりそんな哲学者たちと会話ができるようになった主人公、天野真一（あまのしんいち）と、彼をとりまく哲学者たちによるサークル「テツケン」で巻き起こるドタバタコメディ。哲学について知ってみたいという人におすすめの一冊です。



薬屋のひとりごと

日向夏 / 著 しのとこ / 絵

主婦の友社

とある東洋の国で薬屋を営んでいた少女、猫猫（マオマオ）は、ある日ひょんなことから女官として勤めることになります。なるべく目立たないように過ごしていた猫猫ですが、その持ち前の好奇心と、薬学への押さえきれない探究心によって、後宮を取り囲む陰謀にまきこまれていくことに……。後宮で起こる様々な事件に、猫猫の歯に衣着せぬ物言いが突き刺さる痛快な後宮ミステリーです。



世界を動かした塩の物語

マーク・カーランスキー / 文

S.D. シンドラー / 絵 遠藤育枝 / 訳

BL 出版

ほ乳類が生きる上で必ず必要になるもの、それが塩です。私たち人間はもちろん、犬や猫などの動物たちも、塩を摂取しなければ生きていくことができません。そのため、塩は人類の発展の歴史にも大きく関わってきました。紀元前、塩が貴重品で、金のように取引されていた時代から、現在のように、いつでもどこでも塩が手に入るようになるまでを、様々な国の歴史とともに迫ってみましょう。



焼肉を食べる前に。

中川洋典 / 聞き手・絵

絵本作家がお肉の職人たちを訪ねた

解放出版社

みなさんが食べている牛肉や豚肉などのお肉。それらがどうやって出来ているか知っていますか？この本では、牛や豚を屠畜（とちく）して、みなさんのお家に届ける仕事をしている人たちをインタビュー形式で紹介しています。写真は一切なく、絵本作家さんが描くイラストで、見やすくお肉の加工の仕事を知ることができます。おいしくお肉を食べるため、どんな人が関わっているか読んでみてください。



ラスト1行の四字熟語

たからしげる / 作
PHP 研究所

本を読みながら勉強もできる、一挙両得な本を探していませんか？そんなあなたに好機到来。千載一遇の大チャンス。ショートストーリーを読みながら四字熟語を学べる完全無欠な一冊です。読む前は半信半疑なあなたも、読後には意気揚々としてくれること間違いなしです。いまならもう時期尚早ということはありません。無為無策でいるより、一念発起して四字熟語にまつわる物語を楽しんでみてください。



でいすべる

今村昌弘 / 著
文藝春秋

小学校卒業を間近に控えた小学六年生の少年、木嶋悠介（きじまゆうすけ）は、ある出来事から自分が暮らす町の七不思議の謎を追いかけていました。学校の友達と謎について調べていくにつれて、町全体を巻き込んだ大きな事件に関わっていくことになります。魔女、幽霊、怪異も巻き込んだ怪談サスペンス小説です。きっと、結末が気になってページをめくる手が止まらなくなりますよ。



さかなクンの一魚一会 まいにち夢中な人生！

さかなクン / 著
講談社

自分の好きなものを追求して、ついにお仕事を始めて活躍するようになったさかなクンさん。その半生をさかなクンさんの目線から迫った自叙伝です。魚にハマるようになったきっかけや、魚に夢中になった学生時代、味わった挫折などがみずみずしく書かれています。さかなクンさんの思い立ったら一直線な行動力や、惹きつけられる魅力、周囲の人の温かさに元気をもらえる一冊です。



有頂天家族

森見登美彦 / 著
幻冬社

たぬきが人を化かすと信じられていたこともありますが、そんなたぬき達に人に紛れて生活していたら…？たぬきの青年、下鴨矢三郎（しもがもやさぶろう）は、京都の町で変化の力を使って気ままに暮らしていました。矢三郎をこき使う天狗の師匠や、たぬき同士の権力争い、たぬきを鍋にして食べようとする人間など、彼を取り囲む環境は意外と騒がしく…。キャラクター同志の掛け合いが小気味良い人情ドラマです。

お問い合わせ

刈羽村生涯学習センター「ラピカ」・刈羽村立図書館

新潟県刈羽郡刈羽村大字刈羽 100 番地

電話 0257-20-3102

開館時間 9:00~21:30

休館日 毎月第4月曜日（ただしその日が祝日の場合は翌日）、年末年始、および特別休館日
※その他、機械点検等の理由で休館日とさせていただく場合がありますのでホームページをご確認ください。